



平成26年度水道技術管理者資格取得講習会（東京会場第1回：9月25日～10月16日、
東京会場第2回：9月30日～10月21日、
大阪会場：10月7日～10月28日）

本協会は、水道法施行規則第14条第3号による厚生労働大臣の登録機関であることから、東京会場第1回（97名）、東京会場第2回（99名）、大阪会場（97名）の参加を得て、「水道行政」、「公衆衛生・衛生管理」、「水道経営」、「水道基礎工学概論」、「水質管理」、「水道施設管理」について、15日間の学科講習を実施した。



なお、学科講習修了者については後日「水道施設の技術的基準を定める省令第5条」に適合する汙過設備を有する水道施設において、15日間以上の実務講習を行う。

平成26年度浄水場等設備技術実務研修会（東京会場第5回：10月14日～17日、
東京会場第6回：11月4日～7日）

浄水場・給水所等の運転管理に携わる技術系職員の方々30名（第5回（水道関係企業対象）：15名、第6回：15名）の参加を得て、東京都水道局研修・開発センターの訓練用設備を利用して、ポンプの分解組立等、機器類の運転・操作及び浄水処理について実習するとともに、設備機器の保守・管理の実務について研修を実施した。

平成26年度第1回水道用薬品及び資機材の衛生性調査専門委員会（10月20日）

日本水道協会規格水道用ねじ切り油剤（JWWA K 137）及び水道用シール材（JWWA K 142、K 146）の改正に伴う浸出試験実施項目について検討を行った。その他、水道用薬品に係わる規格について順次見直しを行うこととした。

第932回会誌編集委員会（10月20日）

本誌1月号の編集方針、投稿原稿の審査、新規原稿の取扱いについて審議した。

第2回水道維持管理指針改訂特別調査委員会（10月21日）

はじめに、副委員長長の選出を行い、副委員長には清塚横浜市水道局給水部長が選出された。

続いて、前回議事録の確認、水道関係団体等からの維持管理指針改訂に係る要望の説明、小委員会委員及び主査の決定について、事務局より報告を行った。

次に、目次の改訂案について、各小委員会主査から説明を行った後、質疑を行了承された。

最後に、事務局より今後の改訂スケジュールについて報告し、閉会した。



平成26年度水道技術管理者研修会（10月23日～24日）

水道技術管理者または管理者を補佐する方々162名の参加を得て、「水道事業の現状と課題」、「東京都施設整備マスタープラン～課題の克服に向けて～」、「水道施設の更新と運営・管理～横浜市水道局川井浄水場のPFI事業の事例～」及び「水道水質管理に関する最近の動向」について研修を実施した。

なお、本研修会では毎年特別講師として各界の著名な方々に講演を依頼しており、本年度は有限会社中里スプリング製作所代表取締役社長の中里良一氏による「負けるな町工場～中小企業の人材育成戦略～」と題した講演を行った。



第92回水道 GLP 認定委員会（10月28日）

水道 GLP 認定について、認定更新検査機関として福井市企業局（認定番号：JWWA-GLP067、9月28日付）、名古屋市上下水道局（認定番号：JWWA-GLP015、10月31日付）が、認定維持検査機関として一般社団法人岩手県薬剤師会（認定番号：JWWA-GLP089）、坂戸、鶴ヶ島水道企業団（認定番号：JWWA-GLP090）、環境保全株式会社（認定番号：JWWA-GLP091）、宇都宮市上下水道局（認定番号：JWWA-GLP041）が、それぞれ審議され決定された。

第3回理事会（10月28日）

小林名古屋市水道事業管理者から全国会議開催地代表挨拶の後、尾崎理事長が議長となり議案の審議に入った。第1号議案「全国会議の運営について」、第2号議案「会員の入会について」それぞれ事務局より配付資料に基づき詳細な説明があり、審議の結果、原案のとおり決定した。



平成26年度全国会議〔第85回総会・水道研究発表会〕（10月29日～31日 於：ポートメッセなごや）

～1日目（10月29日）～

開会式においては、開催地代表として河村名古屋市長、日本水道協会を代表して大森副会長（岡山市長）から挨拶があり、次いで厚生労働大臣（宮崎厚生労働省健康局水道課長代読）、総務大臣（廣澤総務省自治財政局公営企業経営室長代読）、国土交通大臣（寺田国土交通省水管理・国土保全局水資源部水資源政策課長代読）、愛知県知事（加藤愛知県健康福祉部健康医療局長代読）、三輪名古屋市会副議長、木股日本水道工業団体連合会会長から来賓祝辞があった。



会場：ポートメッセなごや



開会式



日本水道工業団体連合会水道展

（左から木股日本水道工業団体連合会会長、宮崎厚生労働省健康局水道課長、大森日本水道協会副会長（岡山市長）、小林名古屋市水道事業管理者）



歡迎挨拶：
河村名古屋市長



本協会代表挨拶：
大森副会長（岡山市長）



厚生労働大臣祝辞：
宮崎厚生労働省健康局
水道課長



総務大臣祝辞：
廣澤総務省自治財政局
公営企業経営室長



国土交通大臣祝辞：
寺田国土交通省水管理・国土
保全局水資源部水資源政策課長



愛知県知事祝辞：
加藤愛知県健康福祉部
健康医療局長



祝辞：三輪名古屋市会
副議長



祝辞：木股日本水道
工業団体連合会会長



次期全国会議開催地挨拶：
日野さいたま市水道事業管理者



厚生労働大臣表彰



日本水道協会会長表彰（功労賞）



日本水道協会会長表彰（特別賞）



日本水道協会会長表彰（有効賞）



日本水道協会会長表彰（勤続賞）



日本水道協会会長表彰（水道イノベーション賞）

続いて表彰式が行われ、はじめに厚生労働大臣表彰として宮崎厚生労働省健康局水道課長より宮岸実氏外81名の受章者に対し表彰状が贈られた。これに対して受章者を代表して、増子 敦氏より謝辞が述べられた。

次いで、日本水道協会会長表彰が行われ、本協会副会長の大森岡山市長から、功労賞として宮内 潔氏外3名、特別賞として佐渡 明氏外91名、有効賞として岸田直裕氏外2名、勤続賞として徳田幸司氏他523名、水道イノベーション賞として岩手中部水道企業団、横浜市水道局に対して表彰状が贈られた。これに対して全会長表彰受賞者を代表し、宮内 潔氏から謝辞が述べられた。

表彰式の後、定款の定めにより開催地の正会員代表として小林名古屋市水道事業管理者が議長となり議案の審議に入り、第1号議案「役員の選任」について事務局より提出資料に基づく詳細な説明があり、慎重審議の結果、原案のとおり決定した。

続いて、会員提出問題討議に入り、東日本大震災関係として、問題1「放射性物質に係る対応の推進及び東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故を原因とする損害賠償について」、問題2「水道事業における電力確保対策等について」が上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

次に、補助関係として、問題3「水道事業に対する財政支援の拡充及び補助要件の緩和について」、問題4「水道施設の再構築事業等に対する新たな財政支援体制の確立について」、

問題5「簡易水道事業統合に対する財政支援について」、問題6「二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（上水道システムにおける再エネ・省エネ等導入促進事業）の採択条件の明確化等について」、問題7「交付金の一部事務組合への直接交付について」が上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

続いて、起債・繰出関係として、問題8「起債融資条件の改善及び地方公営企業繰出制度の拡充等について」、問題9「公的資金補償金免除繰上償還制度及び公営企業借換債制度の復活について」が上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

次に、災害対策関係として、問題10「水道施設の震災対策等に対する行財政支援について」が上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

続いて、水源関係として、問題11「ダム等の水源施設の開発促進について」、問題12「安定給水確保のための水利権制度の運用について」、問題13「特定多目的ダムの完成後に要する利水者負担額の軽減について」が上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

次に、水質関係として、問題14「水道水質における水質保全対策及び水質事故の発生防止の強化等について」が上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

最後に、その他として、問題15「地下水利用等による専用水道に係る法整備及び対応について」、問題16「近隣水道事業者との受給水に係る認可変更手続等の簡素化について」、問題17「指定給水装置工事事業者の登録更新制度の創設について」、問題18「配水管の耐用年数の見直しについて」、問題19「水道メーターの検定有効期間の延長について」、問題20「アセットマネジメントの導入推進に係る水道施設の健全度評価手法の確立及び周知について」、問題21「水道事業の国際展開の支援に向けた取組の強化について」、問題22「簡易水道事業統合の課題と解決に向けた支援体制の強化について」が上程され、討議の結果、問題15から問題21については関係当局に陳情することとし、問題22については引き続き事務局にて対応することと決定した。

続いて、宮崎厚生労働省健康局水道課長から、水道行政の現状と課題について説明があるとともに、廣澤総務省自治財政局公営企業経営室長から、水道事業経営の現状と課題について説明があった。

次に、「全国会議開催地の決定について」が上程され、全国会議の開催地は、定款の定めにより、予め前年の全国会議で定めることとなっているため、第3回理事会に諮った結果、さいたま市と内定いただいていること等を事務局から報告し、報告のとおり満場一致でさいたま市に決定した。

続いて、全国会議開催地を代表して日野さいたま市水道事業管理者より挨拶があった。

なお、同日午後から水道研究発表会が11部門に分かれて開催され、発表数は事務26、計画26、水源・取水19、浄水70、導・送・配水77、給水装置19、機械・電気・計装19、水質55、リスク管理・災害対策28、耐震化21、英語9、計369編の発表が行われた。



水道研究発表の様子



水道耐震化プロジェクト基調講演

～2日目(10月30日)～

特別講演として、「水道事業における危機管理—水道事業を脅かすさまざまな危機を認識する—」をテーマに、木村日本水道協会工務部長兼水道技術総合研究所長の進行役のもと、余湖北海学園大学工学部教授、柳原内閣官房情報セキュリティセンター重要インフラグループ参事官、秋葉国立保健医療科学院統括研究官、小林名古屋市水道事業管理者を講師に開催された。(速記録は本誌2月号に掲載予定)



特別講演



進行役：木村日本水道協会工務部長兼
水道技術総合研究所長



講師：余湖北海学園大学工学部教授



講師：柳原内閣官房情報セキュリティセンター
重要インフラグループ参事官



講師：秋葉国立保健医療科学院統括研究官



講師：小林名古屋水道事業管理者

水道研究発表会と並行し、30日から31日にかけて事務局設定4コースに分かれ、名古屋市の水道施設等を視察した。

また、会期中本協会のPRコーナーや日本水道工業団体連合会による水道用品展示会が開催され、多数の見学者で賑わった。



第159回水道技術管理者協議会（11月6日・7日 於：釧路市）

釧路市水道事業の概要について説明を受けた後に、「水道工事事故アクションプラン」、「平成26年度全国会議の概要」、「水道維持管理指針の改訂」、「水道施設の耐震設計入門」、「水道施設耐震技術研修会」について報告を行い、それぞれ意見交換を行った。

2日目は、釧路市上下水道部愛国浄水場の視察を行った。